

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300133
法人名	社会福祉法人 くりのみ会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所
所在地	愛媛県四国中央市土居町津根3008-1
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で温かみのある家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケア(介護)を行ないます。健康管理に十分注意して急変時や特変事は、すぐに協力医療機関と連携を図り、対応できる環境にあります。また、施設内にあるリハビリ施設を利用して一人ひとりにあったリハビリを行い、心身の機能の低下を図ります。
ユニット内でレクや季節にあった手芸・工作を行なうことで楽しみのある生活を送り、また、施設のユニット間の交流を図ることで、生活に張り合いを持たせるように取り組んでいます。
慰問や散歩、外出等で多くの方とふれあう機会を設ける。また、ゆったりとした時間を過ごせる環境を提供できるように取り組みます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型介護老人福祉施設や短期入所生活介護などが併設されている複合施設となっている。窓は大きく開放的で、近くの海や山、庭などを眺めることができ、季節の移り変わりを感じながら、利用者は穏やかに過ごすことができている。また、事業所内全体が畳敷きで居心地良い空間となっており、リビングやラウンジ、ソファなど、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。認知症予防に体を動かすことから楽しんでもらうことを考え、リハビリ施設も充実している。介護福祉士の資格を持った職員が多く、若い職員が増えているが職員同士の仲もよく、チームワークがとれ連携を図りながら業務をしている。管理者は家庭的な雰囲気づくりを大切に、笑顔で積極的に利用者へ声かけをするなど、職員のコミュニケーション力の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所
(ユニット名)	くりのみ土居
記入者(管理者)	
氏名	白川 雄一
評価完了日	平成 26 年 9 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を朝の申し送りやカンファレンスの前に斉唱して理念を常に意識できるようにしています。</p> <p>(外部評価) 「1 その日その時をその人らしく生きる。2 その人に合ったサポートをする。3 地域交流を行う。」という事業所独自の理念を施設長が作成し、開設時の職員間で話し合い全員で共有している。理念はリビングに掲示し、申し送り時に職員が交代で唱和している。職員は理念に沿ったケアを実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 四季折々で、外出を行っています。また、施設全体でのイベントにご家族の方や地域の方を招待して交流を図っています。その他に積極的に慰問やボランティアを受け入れ交流を図っています。</p> <p>(外部評価) 利用者の多くは地元出身者で、顔馴染みの地域住民も多い。笹飾りや夏まつり、盆踊り、どんど焼きなど地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしている。秋祭りには事業所に太鼓台の訪問があり、利用者は楽しみにしている。また、福祉まつりには、利用者の陶芸作品を出品し展示してもらい、見学に出かけている。また、地域の保育園児や小学生が訪問してくれたり、学生のボランティアを受け入れたりするなど、利用者と一緒折り紙を折ったり、会話を楽しんだりしながら和やかな時間を過ごしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や慰問やボランティア受入時に認知症について話をしたり、理解を深めていただけるような場を設けています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議に利用者様も参加して、自由に意見を言っ ていただいています。問題点や指摘点などがあれば職員間で 話し合います。それに対しての改善点がみられた場合も運 営推進会議で報告するようにしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者や家族、民生委員、 市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催 している。会議では利用者の生活状況や事業所での活動の 報告のほか、事業所内の設備補修や地域交流、ボランティ アの受け入れなどを分かりやすい資料を作成し説明してい る。会議には、看護師やユニットリーダーが参加しており 、参加者から出された意見はサービス向上に反映してい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 月に1回、ふれあい相談員さんが訪問され、情報交換を行っ ています。その都度、気になったことはその場で話し合っ ています。	
			(外部評価) 市担当者には毎回運営推進会議に参加してもらい、事業所 の報告をするほか、アドバイスを得ている。管理者は毎月 1回は市の窓口に出向き、運営推進会議の案内や会議録を 手渡し、必要に応じて相談や話し合いをするなど、協力関 係を築いている。また、地域の民生委員がふれあい相談員 として毎月訪問があり、同じ相談員が継続して訪問してく れ、利用者の話や相談を傾聴している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設設備の離床センサーを活用して、身体拘束を行わない ように努めています。必要に迫られたときは、職員間で直 ぐに話し合う場を設けています。また、自施設で勉強会・ 委員会を開催し、それに参加して知識を共有し活用でき るように努めています。	
			(外部評価) 法人内に身体拘束委員会を設け、3か月に1回勉強会を開 催しており、職員全員が正しく理解して、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。外出しようとする利用者には、 気の済むまで職員が付き添い、敷地内を散歩したり、状況 によっては利用者の話を傾聴し気分転換を図ってもらっ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会・委員会を開催し、高齢者虐待防止法などの講習を行うことで意識を深め、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催し、他の職員と知識を共有し活用できるように努めています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする時にパンフレットや利用契約書、重要事項説明書等の書類で詳しく説明をしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等の意見や要望は、面会時や日常報告の電話連絡時に直接聞けるように努めています。いただいた意見に関しては、職員間で話し合う場を設け、積極的に改善できるように努めています。	
			(外部評価) 家族の面会時には、職員から声かけをして利用者の生活状況や伝達事項を伝え、話しやすい雰囲気づくりをして、意見を聞くよう努めている。急ぎの連絡は家族に電話で報告するなど、意見を言ってもらいやすい関係づくりをしている。家族から聞き取った内容は、朝と夕方の申し送り時に伝達するほか、申し送りノートに記録し、職員全員が共有している。聞き取った意見には、迅速に対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングの際に管理者と職員間で話し合う場を設けています。また、お互いに普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。 (外部評価) 職員は毎日のミーティング時に、自由に意見や提案を伝えることができている。外部からの研修案内などの情報は、職員に情報が伝えられ参加することができる。外部研修に参加した職員は、レポートを作成し職員全員が閲覧している。年間計画とテーマを決めて、毎月内部研修を実施しており、職員一人ひとりのレベルアップを図っている。管理者は職員の相談に気軽に応じたり、シフトや希望休を調整したりするなど、話しやすい信頼関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時、職員間の良く努力をしている所や実績などについて本人と話す機会を持つようにしています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的と同グループ職員と合同の勉強会を行っています。また、外部研修の場に参加できるように努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った方々と定期的連絡を取り合って交流を図っています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にお話を十分に伺い、なるべく入居者に関しての不安を取り除くようにしています。また、入居後も不安や要望を会話や行動の中から様子を伺い、注意しながらケアを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしています。また、面会に来られた際などにも積極的に、ご家族に声をかけ、話を聞きだせるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレットや施設見学等で説明をしたり、介護保険の内容をわかりやすく説明しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寝具の交換・運搬、居室の掃除、洗濯や洗濯干し、ゴミ出し等、各入居者ができることは、負担がないように自分で行っていただき、必要に応じて見守りやその入居者に合った支援を行っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあれば気軽に連絡をとり、来室していただけるようにしています。イベント行事には、参加して頂けるように連絡をしています。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイサービスやショートステイを利用して、面会者がいる場合は、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けています。施設外で会いたい場合には、家族と相談を行い、なるべく希望に添えるようにしています。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握している。職員は兄弟などの家族や友人などの面会者の顔を覚えるよう努め、馴染みの関係を聞くこともある。日常会話の中で馴染みの関係を聞くこともあり、新たな情報は追加して記録し、職員全員で共有している。同敷地にあるデイサービスやリハビリ施設を利用する知人もおり、会いに行けるようにするなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に職員間で入居者同士の関係について気になることを話す機会を設けています。申し送りやカンファレンスを通じて職員全員に直ぐに伝達できるように、また、ケアに繋がるようにしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) その後もその方の状態を気にしながら、不定期ではありますが、こちらから声掛けを行っています。また、いつでも相談に乗れるよう日頃から信頼関係の構築に努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が日常生活の中で、入居者の希望や意見を聴き、申し送りやカンファレンス等で報告し、職員全員で情報の共有を図り、統一したケアができるよう取り組みを行っています。また、入居者の馴染みのある場・地区への外出ができるように努めています。 (外部評価) 利用者の生活習慣や趣味、楽しみなどを家族や介護支援専門員から聞くなど情報収集し、できる限り利用者自身ができることをしてもらい支援をしている。思いの把握が困難な利用者には、日々の生活の中での行動や様子を観察し、歌が好きなことや裁縫ができることなどを把握し、利用者本位のサービスを提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・後に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしています。また、入居後も職員との会話等の中でわかったことは、追記し、職員間で伝達しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っています。職員全員で利用者の性格や行動、思いなどを把握して、介護計画を作成しています。また、家族参加が難しい時は、カンファレンス等で出た意見を家族が来室した時に話し合い、意見交換を行っています。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向を把握して、介護計画に反映している。サービス実施状況を確認しながら、3か月毎にモニタリングを実施している。また、事前に家族と話し合いをして意見を聞き取り、カンファレンスで関係者と話し合い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけています。気になることは何でも記載して、そのことについても検討する機会を設けるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の設備（リハビリ施設、交流センター、入浴装置、福祉車両等）をその時の利用者の状況や要望に合わせて、他部門と連携しながら柔軟に対応しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関等と連携を図り、問題点や要望があれば気軽に協力・依頼ができるような関係作りを構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望も聞き、協力医療機関の栗整形外科病院 と連携を図りながら対応しています。かかりつけ医が他に ある場合も連絡を取り、受診が出来るように支援していま す。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することが できる。定期受診は家族の付き添いを基本としており、家 族が同行できない場合は、職員が受診介助をすることもあ る。家族に日々の利用者の様子や症状等を伝えてから受診 してもらい、受診後には家族から受診内容の報告があり、 情報を共有している。また、月に1～2回協力医の訪問診 療と週3回看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行う など、協力医等との医療連携が取れており、利用者は安心 感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設の看護師と毎日連絡を取り合って情報交換をしていま す。また、医療連携の看護師も入居者の健康把握・管理を 行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関との連携は図っています。また、他医療機関 に、掛かっている場合でも情報交換や相談をするようにし て、連携が図れるように努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を作成し、家族に説明・同意を得て、家族・ 協力医療機関、職員が協力できる体制を取っています。	
			(外部評価) 「重度化した場合の対応に関する（看取り）指針」を作成 し、指針に沿って看取り支援を実施することを入居時に利 用者や家族に説明している。終末期に近い利用者の支援を していたが、医師等から最終的に病院へ転院する方が良い と判断され入院となった事例がある。利用者の重度化に伴 い、職員の介護負担や不安などが懸念され、管理者は今後 の課題としている。	看取り介護を実施する方針であることから、早い段階 から事業所として対応できる内容を明確に説明し、段 階に応じて、医師等を交えて話し合いを繰り返し、利 用者や家族が安心して最期を迎えられるよう十分な体 制を整備することを望みたい。また、重度化した場合 や看取り介護等の勉強会を積み重ね、職員の不安解消 やサービスの質の向上を図り、利用者や家族の要望に 沿った介護が実践できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一度、急変や事故発生に時に備えての勉強会を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年、年2回防火防災避難訓練を実施しています。施設内の職員と連携を図れるようにして、災害時に対応できるように努めています。地域と協力できるように、運営推進会議を通して情報交換を行い、協力体制を整えていっています。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施しており、実際に利用者と一緒に避難している。玄関には防火水栓を設け、居室にはスプリンクラーを設置したり、調理場を電化したり、消防署へ直通の通報設備を備え付けるなど、建物の火災対策を万全にしている。運営推進会議では参加者と災害対策について話し合い、地区の連絡網にも事業所が含まれている。また、地域住民に災害時には事業所を避難場所として活用できることを伝えるなど、相互の協力体制ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人ひとりのプライバシーを損ねないようなケアが出来るように心がけ、スタッフ間で入居者に対する言動など普段から個別に話し合えるようにしています。	
			(外部評価) 申し送り時には、利用者に分からないように名前は呼ばずに部屋番号で報告している。食事介助が必要な利用者には気持ちをくみ取り、座る場所を決めて対応するなど、さりげないケアを徹底している。また、居室やトイレへ入った後は必ず戸を閉めるなど、利用者の羞恥心やプライバシーを損ねない対応をするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人ひとりと話を伺えるよう努めています。また、本人が理解し、納得出来るように何事も良く説明をするようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することで、その人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めています。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は、自分で服を選べるように声掛けや助言を行っています。また、外出時には、女性は化粧を行っています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節にあった食事が提供できるようにしています。その都度、味や固さ、量なども感想として聞けるようにしています。調理などはできませんが、配膳や食事の片付けはお手伝いして下さいます。入居者が主体となり、おやつ作りに力をいれています。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、おかずなどは複合施設の1階の厨房で調理している。炊飯や簡単な調理、配膳等は、事業所内で行っており、利用者はできることを職員と一緒に手伝っている。きざみなどの食事形態に対応したり、利用者のペースで食事介助をするなど、利用者の状態に合わせた支援をしており、静かにゆっくりと食事をしている。月1回、男性職員による「おやつ作り」があり、利用者の楽しみの一つになっている。また、年2回外食に出かけられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は、職員が見守り毎食後に食事量チェックしています。水分は、毎食事の時、入浴後、レク、リハ後に身体を動かす前後で水分補給促を実施しています。夜間は、配茶やキッチンにお茶を準備していつでも飲むことができるように準備をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が毎食後に口腔ケアの声掛けを行っています。自分のできない方や、磨き残しがある方には、特に就寝前に口腔ケアを行い口腔内を確認するようにしています。また、協力歯科医師の往診にて連携を図り、歯科衛生士が、職員にも口腔ケアの指導をして下さり、口腔内の清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用して、排泄リズムを掴み、その方の状態に合わせて、トイレ誘導や見守りを行っています。自立に向けて職員間でカンファレンスを行い、その方にあった排泄介助を行っています。	
			(外部評価) 各居室にトイレが設置されており、排泄チェック表を確認しながら誘導してトイレで排泄できるよう支援している。オムツを使用している利用者にも、便座に座ってもらったり、トイレでオムツ交換したりするようにしている。トイレでの排泄を支援することにより生活のリズムができ、トイレを使用する回数減に繋がっている。オムツ使用から布パンツに変更できた利用者もあり、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の場合は、なるべく自力排便出来るように運動を促したり、水分補給を促すなどのケアを行っています。しかし、どうしても時は、看護師や医師に相談し便秘薬を使用するなどの対応を行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個別入浴でゆっくりと入浴を行っています。基本的には、週3日の入浴を実施していますが、本人の希望によりいつでも入浴ができるように準備をしています。入居者の状態を考慮しながら、必要に応じて併設施設内の特浴を利用しています。	
			(外部評価) 週3回を基本として入浴することができる。「お風呂に入っていない」と言われる利用者には、入浴日にはカレンダーに印を付け、入浴日が分かるように工夫している。入浴を嫌がる利用者には声かけに工夫するなど、楽しく入浴できるよう努めている。浴室は広く、個浴槽は3方向から介助しやすい作りとなっている。利用者の身体状況に合わせて、複合施設にある機械浴槽を使用し、安心安全に入浴することができる。また、入浴剤を入れ、湯船に浸かりながら職員と会話をしたり歌を歌ったりするなど、ゆっくり楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり個々人の睡眠ペースを尊重するようにしています。眠れないと居室より出て来られる方や不安がある方には、職員がしばらく側についてお話をしたり安心していただけるような対応を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服用している薬と効果・副作用がわかる一覧表を置いてあり、現在、服用中の薬や変更になった薬などを直ぐに情報が共有できるようにしています。新しく処方された薬に関しては、特に服用後の状態観察を徹底しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの活動に加えて、趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした取り組みをもう一度見直し、その人に合った取り組みを行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族の相談のもと、体調の許す限り自由に外出していただいています。なるべく、家族の方に協力していただく様にしていますが、職員が同行したり、外出先の方に協力していただくこともあります。	
			(外部評価) 季節に応じて、春には「山の神公園」へ花見に行ったり、秋には景色の良い場所に出かけている。毎日、敷地内にあるリハビリ施設へ行き、身体を動かすほか、施設へ行くことが運動や外出する機会となっている。また、複合施設内にあるデイサービスやショートステイに立ち寄り、会話を楽しんだり、花を見たりするなど、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、自由に所持していただいています。認知症が進行してる方や置き忘れ、物盗られ妄想などがある方に関しては少額を所持していただいています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホーム内の電話を自由に使用して電話をしていただいています。手紙を投函する場合は、家族に確認して頂いて投函します。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホーム内や居室は、すべて畳み敷きで家庭環境に近い雰囲気になっています。大きな窓を使用して、自然の光を取り入れています。掲示板では、利用者と一緒に作った季節にあった飾り付けを行っています。</p> <p>(外部評価) リビングや廊下、居室等はすべて畳敷きになっており、心地よくくつろげる空間となっている。レクリエーション時に作成したちぎり絵やぬり絵、陶芸を飾り、落ち着いた雰囲気となっている。ソファや椅子、テーブルを置いたラウンジを設け、ゆったりくつろげるスペースがあり、一人ひとりが思い思いの場所で過ごすことができる。窓は大きく開放的で、近くの家や山、庭などを眺めることができ、季節の移り変わりを感じながら、利用者は穏やかに過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ラウンジにテーブルと椅子を設置して、気のあった方と座って外の景色を眺めながらお話し出来る場を作っています。また、リビングは、食堂とくつろぎスペースを設けて個別で話を出来る場を設けています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、本人の使い慣れた物や思い出の物、家族の写真などを配置して、本人にとって暮らしやすい環境になるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 居室入口は広く、ドアも大きい。居室内も広く畳敷きとなっている。居室には、トイレ、ベッド、寝具、クローゼット、衣装ダンス、テレビ、冷蔵庫が常備されている。利用者の使い慣れた急須や化粧品などを持ち込んだり、写真を飾るなど居心地の良い空間づくりをしている。また、利用者に合わせてベッドなどの配置を変えている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの出来ること出来ないことを職員が把握して、その能力に応じて作業を職員と一緒にしています。職員もその方にとって出来るかもしれない事を実際に挑戦したり検討する場を設け、意見を出し合うようにしています。</p>	